

# 2019年度支部委員会発足にあたって

## 出来るところから、しかし着実に

# けやき



No. 613

2019.8.9

京大職組  
文学部支部

### 新支部長あいさつ

芦名 定道

文学部教職員のみなさま、二度目の支部長をお引き受けることになりました。一度目（山極体制前）と今回との間も、組合活動とは継続的な関わりをもつてきましたので、久しぶりの支部委員という実感はそれほど強くありません。しかし、未払い賃金請求裁判闘争から、前回の総長選挙、5年雇い止め問題、軍事研究問題、そして最近の立て看問題と吉田寮問題まで、この間、京都大学をめぐる状況は目まぐるしく変化し、組合としての方向を見定めるには困難を感じざるをえません。実際、組合自体も、組合員の減少をはじめとした多くの懸案事項をかかえ、組合員個々人も職場の多忙化、人間関係の複雑化、そして賃金の抑制などに直面しています。日本社会から、京都大学、職員組合まで、大きな閉塞状態に落ち込んでいると言わなければならない。

では、出口はどこにあるのでしょうか。魔法のような特効薬などどこにもありませんし、支部長のわたしもそれは持ち合わせていません。頼りない支部長で申しわけありませんが、2019年度は、「出来るところから、着実に」とのモットーで進みたいと考えています。

魔法の薬はないとしても、出来ることはある。大切なことは、出来ることを実行し、そしてそれを次の出来ることへとつないでいくことだと思います。そのためには、文学部支部の強みを生かしていくことがポイントなのではないでしょうか。

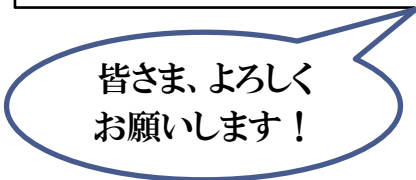


先日、2019年度の支部委員のみなさんと、南川研究科長と大野事務長にご挨拶をいたしました。短時間の挨拶でしたが、文学部支部と文学研究科との間の協力関係については、十分に確認できたものと思います。文学部支部と文学研究科との間には、話し合いの場と協力関係が存在しており、これは、文学部支部として何を行うにも必要不可欠の基盤です。京都大学職員組合と大学当局との間の現在の難しい関係を考えるならば、文学部支部が文学研究科と良好な関係にあることは大きな強みとなるはずです。

まずは、教員が多いという文学部支部の強みを生かして、組合員のみなさまの知恵をお借りしたいと思えます。文学部支部で「出来ること」のアイデアを、支部委員までお寄せください。そして、知恵とともに、少しだけ力もお貸しください。これまでの文学部支部の活動をすべて継続することは決して容易ではありませんが、知恵と力を出し合って、出来るところから、着実に進みたいと思えます。ご協力、よろしく、お願いいたします。

### 2019年度支部委員会

メンバーをご紹介します。



支部長	芦名 定道
副支部長	横地 優子 富井 眞
支部委員	福村 輝美 藤山 優美 似内 奏子
ビラ配布	事務支部委員全員

### 新支部委員会 研究科長と事務長にご挨拶

2019年度新支部委員会発足に際して、支部委員会では、南川高志研究科長・大野広道事務長へ挨拶会見を申し入れ、7月16日の昼休みに支部委員会メンバー6名出席の上、挨拶会見が行われました。

研究科長からは、図書館の狭隘化を含め、文学研究科が抱える施設問題など懸念事項についてお話があり、今後皆様と協力していきたいと挨拶されました。また、芦名支部長より、これまで通りの組合との信頼関係に基づき、必要に応じて折衝や懇談に応じていただくこと、組合との慣行事項などで変更が必要となった場合は必ず事前に相談いただくことをお願いし、お互いに今後とも協力していくことが確認されました。

